

2023年2月21日

健康福祉サービス第三者評価結果 公表 共通様式

1 事業者情報

| | |
|------------|--|
| 福祉サービスの種別 | 保育 |
| 事業所名 | レイモンドみらい園児童クラブ |
| 代表者氏名（管理者） | 施設長 中井 良介 |
| 法人名 | 社会福祉法人 檸檬会 |
| 定員（利用人数） | 36名（29名） |
| 施設・事業所所在地 | 滋賀県大津市中央2-2-20 |
| T E L | 077-524-7399 |
| F A X | 077-524-8399 |
| 電子メール | r.yousuke.n@lemonkai.or.jp |
| ホームページアドレス | http://www.lemonkai.or.jp |

2 第三者評価機関

| | |
|----------|------------------------------------|
| 第三者評価機関名 | ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター |
| 評価実施期間 | 2023年2月1日 |

○ 総合評価

社会福祉法人檸檬会は、全国に保育園・こども園・プリスクール・小規模保育園・児童クラブ等60ヵ所以上を運営している。保育を中心に学童保育支援事業を含めて、「ソーシャルイノベーション」を生み出し、社会貢献および、より多くの方と幸せを分かち合える社会づくりを果たしている。当法人は保育サービスの質向上を目指して第三者評価調査を5年ごとに受審してきた。今般児童クラブが第三者評価調査対象に入ったことから受審を決断され、滋賀県で先頭を切って受審されることとなった。

「全ての子どもに対し、短期的な結果を求めるのではなく、生涯消える事の無い“生きる力”と“3つの心”「①人・命を愛する心②自然と共に生きる心③想像(創造)する心」を育むことを保育理念として保育方針は下記の3項目である。温かさに満ちた愛情の中で一人ひとりの特性を生かし、のびのびと育ててほしいと願っている。

「1、子ども一人ひとりの育ちに寄り添い、それぞれの生きる力を育みます」

「2、様々な体験を通して、しなやかな身体と豊かな感性を育みます」

「3、人との”つながり”、社会との”つながり”を育みます」

施設長のリーダーシップと全職員の意志統一の下、月極保育及び特に春、夏、冬休み等の長期休暇保育においては、子ども達が主役になれる環境整備の充実に努めている施設である。

○ 特に評価の高い点

1、子ども中心の保育方針

学校から帰ってきた子ども達は「ただいま」と挨拶し、学校での出来事をすばやく支援員に報告している。その後は、靴・カバンなどを所定の場所に片付け、着替えたものをハンガーに掛けた後、ボードに貼られた月間・当日の予定表を確認し、体温測定値を記入し、健康観察表、毎日往復する情報交換ファイルの提出、カメレオンコードをパッドに当てて登園確認まで、スムーズに進められて行く姿から、すべてが流れとして習慣化していることが確認できた。

次に手を洗い清潔にした子どもたちは、おやつコーナーに行きメモを読んで選択可能なものの中から好みに応じておやつを手にとって自分の座席につき、午後のおやつを楽しんでいる。その後は学習をする子が多く所定の机に向かって、宿題を中心にそれぞれ独自で取り組んでいた。

好きな遊びを探して一人でする子、2～3名で同じ遊びや工作に取り組む子どもなど自分の好みに応じて楽しんでいる。中にはおやつを少し残していたものをおやつ机に戻って楽しむ子どもなど自由な流れが活かされている。グループで熱心に遊んでいる中には、パソコンを使用し使い方でいろいろな方法があることを確認し合っていて、ワードやエクセルを使える子どもが増えてきているとのことであった。

週に1回異年齢グループの活動の場を用意し、それぞれに楽しむことを継続している。これが園活動の進め方や特にイベントの取り組みとして、子ども達が相談し合ってそれぞれの担当を決めて、食品や賞品の購入までを電話で交渉しそろえる事も行っている。注文書はワードを使って作成しお店に渡している。こうした活動は担当した一人ひとりの成功体験が自己肯定感を積み上げて行くこととなり、将来が楽しみである。支援員も何かをする前には、

必ず子ども達に声がけすることとしている。

2, キッズプラスの活用

支援員が少しでも子ども達と関わる時間を持とうとすると、報告・確認・集計業務などは子ども達のいない時間にすることとなり、従来の進め方では大きなネックとなっていた。こうした事務作業を軽減させる支援システムとして、最先端の一つとしてカメレオンコードを使って登降園の管理・請求書等の集計、保護者からのお休み連絡、指導計画や日誌の作成、緊急時やお知らせメール配信がスムーズに行えるようになったキッズプラスを使用ようになり、支援員の事務作業の軽減が実現すると共に保護者側でも連絡・確認に関して大きなメリットが生まれたものと考えられる。益々このシステムの活用展開が進むものと感じている。

3, 春、夏、冬の長期休暇保育の展開

長期休暇保育について、当園は事前計画に取り組んでおり、子ども達にとっては面白い経験や自信を積み上げる契機に成る内容となっている。各シーズンに相応しい内外活動を取り入れていて、この実施内容で参加する子ども達が興味を持って参画できるはずである。毎月発行している「おたより」で夏季休暇特集の9月号では、実施した内容の説明にカラー写真36枚、黒白写真26枚を使用し、説明文を添付している。見ればわかる「見える化」に徹した手法で保護者とのコミュニケーションを取っている。

4, 保護者用の毎月の「おたより」

毎月発行の「おたより」は、重要な保護者とのコミュニケーションツールとなっている。写真を上手く取り上げて、子ども達の生き生きとした活動内容が手に取る様にわかるよう、文章は簡潔で清々しい技法で、毎月写真枚数は20～30枚を下ることはない。しかも特定の児童に留まることなく児童全員の様子がいずれかに掲載されている様常に配慮している。保護者としてはいつも楽しく読めるので、この通信も大きなコミュニケーションのはたらきをしておりその手法は評価したい。

5, 保護者アンケートの結果

29名の内18名が回答（回収率62%）を寄せて、11項目の内全項目OKは4人、80%以上OKは17名あり、保護者との信頼関係は優れていると言えよう。本件の保護者への周知が行き届かなかったことは残念であるが、この結果の延長線が実態であると考えて、更なる信頼関係維持発展に努めて欲しい。

○改善を求められる点

1, 事故防止体制

レイモンドグループは、5月8日を「安全の日」と設定し全国で一斉に交通安全活動をしている。児童クラブに関しては小学校下校から児童クラブ迄の行路は各児童本人の責任でありまた降園の際迎える保護者がある場合は良いとして、一人で降園する場合は、下校・降園共

に本人の責任で対応することとなる。交通ルールの指導やルート決定の際の支援以外には手を出せないこととなっている。

その分園内での事故発生とならぬよう、配慮を期待したい。

○第三者評価結果に対する事業者のコメント

今回が初めての第三者評価で、第三者の目を通すことで課題が多く見つかるのではと考えていたが、高く評価していただく面の方が多くあり、既存のやり方、考え方にとらわれず子ども達と新しいことに挑戦をしてきた姿勢が今回の評価に反映されているのではないかと思う。それらを当クラブの強みとしてこれからもより良いものにしていきたい。また今回の評価を通して見えてきた課題や発展途上の部分については具体的な策を講じ、改善していく所存である。

子ども達が安心・安全に過ごせる、保護者が安心・信頼して預けられるという、児童クラブに求められている当たり前を小さな配慮、一つの声かけから作っていき、レイモンドみらい園の児童クラブに通ってこそ得られる「何か」を今まで積み上げてきたものとこれからチャレンジしていくことの中でもっと生み出していきたい。